

バルフォア著「印度事象」余談

本著は一世紀前ロンドンで出版されたが、医者で本好きの著者が長年調査した結果の労作だけに、いつまでも利用され版を重ねた。

民俗学、動植物の解説が特に面白く、南方熊楠の「十二支考」にもしばしば引用され、彼の博学の情報源ともなった。

各国でよく売れるため、著作権がなくなってからインドその他でリプリント版が出た。そして最近の書店のニュースに書名も巻数も変わり“Encyclopedia Asiatica……9v.”として載っている。リプリントの表示がないため新刊書のように見える。ただ著者は変わっていないので、百年前に死んだ人が新刊書を出すわけではあるまいと本屋

さんに話したところ、彼も半信半疑。どうやらインドの出版社=ニュースを転載しただけのようで、インド商法の変化球にまどわされたい。

書名まで変えて売り続けられる本は洋書では珍らしい。それだけ利用価値が高い証拠か。わが館でも帝国図書館本、満鉄本など4種類所蔵している。アジア・アフリカ資料室の開架本は利用者のコピーのためよく傷んで製本に出す。

複本があるのが心強い図書館の一つである。

Balfour, Edward Green, 1813—1889.

The cyclopaedia of India and of Eastern and Southern Asia…… 3d ed. London, Quaritch, 1885. 3v.

(請求記号) 915.4-C995 2nd ed.

915.4-B185 c2 (5冊本)

9GE8-19

特26-0121

(アジア・アフリカ課主査・河嶋慎一)

